

呼びかけ体制づくり検討シート

自主防災組織名		
No.	項目	内容
1	世帯数・人口	
2	避難先	
3	災害想定区域	
4	避難情報の入手方法	
5	呼びかけの順番(連絡体制)	
6	呼びかけ担当者不在時の対応	
7	呼びかけのタイミング	
8	呼びかけの範囲・優先度	
9	呼びかけ方法	
10	呼びかけ内容(メッセージ)	
11	呼びかけ・避難の確認方法	
12	避難経路	
13	避難所の開設	
14	他団体との連携	
15	その他	

呼びかけ体制づくり検討シート(検討例)

自主防災組織名		◇◇町自主防災組織
No.	項 目	内 容
1	世帯数・人口	約 100 世帯／約 250 人 （令和 2 年 1 月時点）
2	避難先	◇◇町公民館
3	災害想定区域	土砂災害警戒区域・特別警戒区域
4	避難情報の入手方法	テレビや県の防災メール、防災行政無線の戸別受信機等により情報を入手する。
5	呼びかけの順番（連絡体制）	会長（副会長）→副会長*→組長（10 人）→住民 *会長・副会長は分担して組長に連絡する。
6	呼びかけ担当者不在時の対応	会長が不在の時：副会長が全組長に連絡する。 組長が不在の時：会長・副会長が直接、全住民に連絡する。
7	呼びかけのタイミング	警戒レベル 3 が発令されたとき。 *警戒レベル 4 以降に戸別訪問で呼びかけを行うと、呼びかける側にも危険が及ぶ可能性があるため、呼びかけは警戒レベル 3 のみとする。
8	呼びかけの範囲・優先度	全住民に避難を呼びかける。 ただし、要配慮者や土砂災害警戒区域に居住する住民から先に呼びかけていく。
9	呼びかけ方法	固定電話と戸別訪問を主とする。 今後は携帯電話でも連絡ができるよう、住民に携帯電話の番号を聞き取る予定である。
10	呼びかけ内容（メッセージ）	<ul style="list-style-type: none"> • 私は◇◇町公民館に避難するので、一緒に避難しましょう！ • 自分の命を守るのは自分です！急いで一緒に逃げましょう！ • 残った人を悲しませるのはやめましょう！
11	呼びかけ・避難の確認方法	①住民に避難の呼びかけをしたら、組長は会長・副会長のいずれかに呼びかけた人と呼びかけた人の避難先を報告する。 ②会長・副会長は、組長からの報告を情報共有する。
12	避難経路	災害図上訓練やまちあるきを行い、過去に被災した箇所や危険な箇所を把握しており、安全に避難できる経路を設定している。
13	避難所の開設	◇◇町公民館（レベル 3 発令時に市が開設する。）
14	他団体との連携	現在、連携している団体はないが、今後、消防団や民生委員、子ども会などと話し合い、災害時における情報共有や、要配慮者の支援、平時の防災活動などについて、連携していく予定である。
15	その他	<ul style="list-style-type: none"> • 防災マップの作成について 今後、土砂災害警戒区域等の災害想定区域や、過去の被災箇所、避難所、避難ルートなどを示した防災マップを作成し、地区の状況を把握する予定である。